



新任紹介：外科副部長 井上立崇

平成21年4月1日より赴任してまいりました。専門は消化器一般外科、特に胃・大腸の腹腔鏡手術です。簡単な経歴ですが、平成9年神戸大学を卒業。京都大学医学部附属病院、大阪赤十字病院、兵庫県立塚口病院で外科一般を研修した後、京都大学大学院で高度肥満患者に対する外科手術についての研究を行いました。その後京都大学医学部附属病院、癌研有明病院で胃・大腸の悪性腫瘍に対する腹腔鏡手術のトレーニングを受けました。



現在、各種ガイドラインによって悪性腫瘍の治療方針は施設間格差がなくなってきており、治療の質が問われる時代となっております。専門病院に劣らないクオリティーの手術を行うことで地域の先生方の力になりたいと、中山昇部長、寺谷直樹部長とともに考えております。また急性腹症に対しても、フットワーク軽く迅速で的確な治療に努めております。

地域の健康に貢献できるよう誠実に頑張っておりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。質を上げるように頑張っていきたいと思ひます。皆様、ご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願ひいたします。

放射線科：当院における乳がん検診の現状

【はじめに】

現在、乳がんは女性がかかるがんの第1位であり、30歳代から60歳代では全てのがんの中で乳がんの死亡率が第1位となっております。乳がんは欧米に多いとされてきましたが、食生活やライフスタイルの変化により、日本でも乳がんが急増中です。日本において毎年4万人が新たに乳がん罹患者、毎年1万人以上の方が乳がんのために亡くなるという深刻な状況です。現在では20人に1人の割合で乳がんにかかるといわれています。

【当院のマンモグラフィ担当撮影技師について】

当院ではNPO法人マンモグラフィ検診精度管理中央委員会の定めるマンモグラフィ撮影技術A認定(読影力、精度管理能力が他に指導できるレベルに達する)を取得する診療放射線技師5名、B認定1名でマンモグラフィを担当しています。そのうち4名の女性技師がメインとなり撮影をしています。また、医師についても読影認定を取得しています。

【当院のマンモグラフィ精度管理状況について】

当院では、マンモグラフィ担当技師によりマンモグラフィ用の受診者データベースを作成しています。各受診者にカテゴリー分類および所見、乳房の構成、撮影時の注意点、その後の経過などを入力しています。このデータベースをもとに、再受診時のポジショニング、撮影条件を確認し、前回の画像や所見をもとに、よりよい画像を提供しています。

【当院の乳がん検診の受け入れ状況】

当院では、外科外来にて毎週水曜の午後、乳腺外来を行っています(13時～16時)。地域連携では、住民健診の中でマンモグラフィ併用乳がん検診も受け入れています。乳がん検診や地域連携で見つかった癌は、外科手術、放射線治療、化学療法などにより、トータルケアを行うことができます。

厚生労働省が国家的プロジェクトとして乳がん検診における超音波検査の有効性を検証する比較試験『J-START』を立ち上げました。これに応じ、浜松市医師会も研究参加団体として登録しました。それを受け当院もこのプロジェクトに協力するため準備を進めています。

また、今年度よりJ. POSH(日本乳がんピンクリボン運動)に賛同し、ジャパン・マンモグラフィサウンダーの2009年度賛同医療機関として登録しました。J. POSHは10月の第3日曜日に全国どこでもマンモグラフィ検診が受診できるように、との活動をしており、当院も今回協力することになりました。働く女性が多くなり、家事や育児も重なり、なかなか検診をする機会がないと思ひます。早期発見すれば癌の治療率は上がります。検診の機会を増やせるようスタッフ一同頑張っていきますので、よろしくお願ひします。



私達が担当しています。(左から) 松本麻衣子、内田千絵、荻原豊子、川嶋佳香

第56回浜松労災病院学術集談会の開催について

次により開催いたします。多数の先生方の参加をお待ちします。

1. 日 時 平成21年7月1日(水)16:00～
2. 場 所 第1会議室
3. 演 題 一般演題
4. 特別講演 「新型インフルエンザをめぐる諸問題」(仮題)
呼吸器内科部長 豊嶋 幹生

